

富山大学人文学部令和4年度卒業論文

SNSのアカウントの使い分け

——TwitterとInstagramの趣味アカウントは本当に「趣味」アカウントなのか——

富山大学人文学部人文学科  
社会文化コース社会学分野  
学籍番号 11910111  
氏名 野々村 成望

〈目次〉

第1章	問題関心	1
第2章	先行研究のレビュー	2
第3章	調査概要	
第1節	質問項目と実査について	4
第2節	インタヴューのインタヴュー当時のアカウント保有状況	6
第4章	分析	
第1節	リアルアカウントにおける趣味の話題	10
第2節	アカウントを新設する動機・理由	12
第3節	趣味アカウントでされる日常の話題	16
第4節	趣味アカウントのマネージメント	18
第5章	考察	
第1節	趣味アカウントの多様性と多義性	19
第2節	情報深度の調整について	22
第3節	おわりに	23

文献

卷末資料	：グロッサリー（用語解説）	24
------	---------------	----

## 第1章 問題関心

SNSのアカウントは、大きく分けると学校の人やバイトの人などリアルでの知り合いと繋がる「リアルアカウント」と、それ以外のアカウントに分けてとらえられることが多い。この「それ以外のアカウント」の中で、同じ趣味を持った人と繋がる「趣味アカウント」は、とりわけポピュラーなものであり、私の周囲にも趣味アカウントをもつ人は多い。

このようにして、人々はしばしばアカウントを複数もつことになるが、本当にうまく使い分けられているのだろうか。後でも述べるが、「趣味アカウント」と言いながら、趣味に関連するものだけではなく、日常的な投稿など、趣味以外の内容の投稿も多く見られる。また、その逆でリアルアカウントでも趣味に関連する投稿がされることも珍しくない。なぜ、そのようなことがおこるのだろうか。

以上のような問題関心から、本研究では、人々の、SNSのリアルアカウントと趣味アカウントの使い方について調査したい。

なお、本研究では、SNSの中でも、特にTwitterとInstagramに対象を絞りたい。私自身、これらのSNSを好んで使っているのだが、その理由は、周囲に同じ趣味の人がいなくても、つながれるから。そうしたことは、LINE（特にオープンチャット）やFacebookでも可能ではあるが、匿名性よりも、実質的には匿名でない個人としてやりとりする印象が強く、趣味の話題などはしにくいと感じた。人によって感じ方は多様だろうが、私と似た感覚をもつ若者も少なくないのではないだろうか。このような考えから、本研究では、特に若者の友人関係の構築・運営の場になりやすいTwitterとInstagramを特にとりあげることには意義があると考えている。

## 第2章 先行研究のレビュー

青山（2018）は、成城大学の大学生 155 名（講義の受講生）を対象とした質問紙調査を行い、Twitter やそのほかの SNS をどのように用いて、どのようなコミュニケーションをしているのかを具体的に明らかにすることを目的としている。その中で、複数アカウントに関する質問が設けられている。

アカウントの保有状況については、Twitter のアカウントを 2 つ以上持っていると答えた人は 81 人（全回答者の 52.3%）、Instagram のアカウントを 2 つ以上持っていると答えた人は 25 人（全回答者の 16.9%）だった。複数のアカウントを使い分ける理由（選択肢は「日常（普段用）」「趣味」「愚痴」「メモ」「特定の友達グループ」「前に使っていたアカウントが使えなくなった」「その他」、複数選択可）については、「日常（普段用）」が 72 人、「趣味」が 70 人と多いが、「愚痴」（30 人）、「特定の友達グループ」（26 人）もそれに次いで多い。

アカウントを追加した理由（選択肢は「前のアカウントの人に見られたくないから」「趣味の友達が増えたから」「フォロワーを整理したいから」「タイムラインを整理したいから」「その他」、複数選択可）については、「趣味の友達が増えたから」が 27 人と最も多いが、「前のアカウントの人に見られたくないから」が 26 人、「フォロワーを整理したいから」が 19 人と続く。

また、この調査では、自由記述回答も設けられており、その分析も（詳細なものではなく例示にとどまるが）なされている。それによれば「趣味の友達と普段いる友達で分けている」「趣味アカウントの方が情報共有しやすいから」というように、その趣味を知っている人と情報を共有するために、日常用のアカウントでない場が求められているようだが、「愚痴を人に見せるのは失礼だから」「知人友人が見ないところでつぶやいてみたかったから」などのように、交友範囲に含まれる人々には見せたくない場合にもアカウントが作られているようだと言っている。

若狭（2018）は、若年層 16 名へのインタビューを行い、ゴッフマンによる自己呈示の視点から、SNS の使い分けについて分析している。若狭は、ゴッフマンにならい、相互行為のなかで現れる自己を「社会的アイデンティティ」と「個人的アイデンティティ」とに分けている。前者は、職業や身分を含む属性で、状況において担う「役割」に符号する。後者は、ある状況の役割から漏れ出るもので、役割との距離を表すものである。

若狭（2018）のインタビューーたちは、SNS における自己の情報を「注意深く」呈示している。たとえば、リアルアカウントのプロフィールに、趣味のコミュニティでは広く使用されている俗語などを使うと、フォロワーがその人について抱く社会的アイデンティティが攪乱され、当惑を感じる人がいるかもしれない。これを避けようとするならば、アー

ティストの名前などの比較的誰もが知っているような情報のみを用いるべきだろう。これを若狭は「情報深度」の調整と呼ぶ。

情報深度の調整は、プロフィールだけでなく、投稿内容によってもなされる。たとえば「インタビューーF」は、Twitterのアーティストのファンとつながりを持っているアカウントと、大学の友人とつながりを持っているアカウントの両方に、アーティストに関する情報を含んだ投稿を行なっている。しかし、大学の友人とつながりを持っているアカウントには「CDが発売されたから買いました」「ライブに行きました」といった基本的な情報を投稿し、アーティストのファンとつながりを持っているアカウントでは、Fが「コアなこと」と表現する「この曲のこのPV（プロモーション・ビデオ）のこの顔がたまらん」といった、その話題についてより「深い」情報を投稿している。

このように、リアルアカウントでも情報が浅めなら趣味に関する投稿も行なわれたり、特定の趣味アカウントでも情報が浅めなら他の趣味についての投稿が行なわれたりすることが多いと考えられる。ただし、情報深度の調整の必要性は、趣味の内容や趣味の知名度によっても変わってくる可能性はあるだろう。

以上のレビューをふまえて、本研究ではインタビューによるデータの分析を行いたい。まず、それぞれのアカウントの保有状況（何個のアカウントを持っているか）については、複数アカウントを持っている人を調査対象として選定しているが、一人だけ（Bさん）対照させるためにアカウントをひとつだけ持っている人がいる。それ以外については、「2つ以上」とひとくくりにせず、より詳細に聞きたい。また、複数アカウントを持つ理由（用途）についても詳細に聞き取ることで、目的・ねらいと実際の活用状況との間に生じるギャップも明らかにすることができるだろう。さらに若狭（2018）をふまえて、本研究の調査協力者たちがどのように情報深度の調整を行うのかに着眼する。

### 第3章 調査概要

#### 第1節 質問項目と実査について

調査を進めるために、Twitterのリアルアカウントとその他のアカウントを持っていて、普段ツイートをしている人を探し、インタビューを行なった。また、その比較対象として1つのアカウントのみを運用している人（Bさん）にもインタビューを行なっている。

アカウントの基本情報・フォロワーとのコミュニケーションの取り方などの質問に加え、アカウントが目的ごとに分けられているのにも関わらず、目的に合っていない内容の投稿がされる理由に関係しそうな質問をした。インタビュー後、気になった箇所については後日追加インタビューを行なった。

#### 【調査対象者Aさん】

##### 第1回 インタビュー

日時：2021年6月3日（木）

場所：zoomで実施

##### 第2回 インタビュー

日時：2021年6月24日（木）

場所：zoomで実施

#### 【調査対象者Bさん】

##### 第1回 インタビュー

日時：2021年6月18日

場所：zoomで実施

##### 第2回 インタビュー

日時：2021年7月6日（火）

場所：LINEのメッセージで実施

#### 【調査対象者Cさん】

##### 第1回 インタビュー

日時：2022年2月23日（水）

場所：学校で実施

**【調査対象者 D さん】**

第 1 回インタビュー

日時：2022 年 7 月 11 日（月）

場所：zoom で実施

第 2 回インタビュー

日時：2022 年 7 月 18 日（月）

場所：Twitter の DM で実施

**【調査対象者 E さん】**

第 1 回インタビュー

日時：2022 年 9 月 4 日（日）

場所：LINE 電話で実施

第 2 回インタビュー

日時：2022 年 9 月 7 日（水）

場所：LINE のメッセージで実施

## 第2節 インタビュー어의インタビュー当時のアカウント保有状況

### 【Aさん】

Aさんは、Twitterのアカウントを4つ持っている。

1つ目のアカウント(AT①)は、好きな声優を応援するための趣味アカウント(公開アカウント\*:[\*]は巻末グロッサリー参照。以下同様)で、フォローは約300、フォロワー約400である。イベントやライブなど特別なことがあった時のみ感想をツイートしている。

2つ目のアカウント(AT②)は、AT①の中で仲が良い人、仲良くなりたい人と繋がっているアカウント(鍵アカウント\*)で、フォロー・フォロワー共に約30である。1日1、2ツイートくらいで、趣味のこともリアルのこともツイートしている。

3つ目のアカウント(AT③)は、AT②の中でさらに仲が良い人と繋がっているアカウント(鍵アカウント)でフォロー・フォロワー共に5人である。誰かに〇〇と言われて嫌だった等ネガティブなツイートはこのアカウントです。フォロワーとは基本空リプ\*で話す。

そのほかに、4つ目のアカウント(AT④)もある。これは、好きなソーシャルゲームについてのツイートをするアカウント(鍵アカウント)でフォロー・フォロワーは共に3人である。新情報が解禁された時はツイート数が多く、ツイートする頻度が最も高いアカウントである。AT①AT②のアカウントで繋がっている1人とAT①AT②AT③のアカウントで繋がっている2人のソーシャルゲーム用のアカウントと相互フォロー\*である。

Aさんは、Instagramのアカウントを1つ持っている。

AさんのInstagramのアカウント(AI)は、リアルアカウント(公開アカウント)で、フォロー・フォロワー共に約150である。AT②のフォロワーの半数はInstagramでも繋がっている。

AT①→AI→AT②→AT③→AT④の順番でアカウントを作った。

### 【Bさん】

Bさんは、Twitterのアカウントを1つ持っているのみで、アカウントの使い分けを行っていない。

BさんのTwitterアカウント(BT)は、ゲームの情報収集をする趣味アカウント(公開アカウント)で、フォロー約300フォロワー約180である。リアルの知り合いは約15人でそれ以外はネット上のみでの繋がりである。普段1日4ツイートくらいしている。ツイート内容はゲームのことが8割、リアルのことが2割である。



### 【Cさん】

Cさんは、Twitterのアカウントを4つ持っている。

1つ目のアカウント（CT①）は、二次創作・アニメ・ゲームに関する趣味アカウント（公開アカウント）で、フォロワー約400、フォロー約200である。同じ趣味のリアルの友人1人とは繋がっているが、それ以外のフォロワーは全てネット上のみの繋がりである。

2つ目のアカウント（CT②）は、リアルアカウント（鍵アカウント）で、フォロー・フォロワー共に約50である。リアルの友人のみと繋がっている。

3つ目のアカウント（CT③）は、趣味のグッズの取引用アカウント（公開アカウント）で、フォロー・フォロワー共に約20である。お互い取引が終わったらフォローを外すこともある。

4つ目のアカウント（CT④）は、キャンペーンの応募用アカウントで公式アカウントのみフォローをしている。

Cさんは、Instagramのアカウントを1つ持っている。

CさんのInstagramのアカウント（CI）は、リアルアカウント（鍵アカウント）で、フォロワー約350、フォロー約250である。リアルの友人のみと繋がっている。

CT①→CI→CT②の順番でアカウントを作った。

### 【Dさん】

Dさんは、Twitterのアカウントを6つ持っている。

1つ目のアカウント（DT①）は、高校の友人と繋がっているリアルアカウント（鍵アカウント）で、フォロー・フォロワー共に約100である。

2つ目のアカウント（DT②）は、大学の友人と繋がっているリアルアカウント（鍵アカウント）で、フォロー・フォロワー共に約100である。

3つ目のアカウント（DT③）は、声優を応援するための趣味アカウント（公開アカウント）で、フォロー約600 フォロワー約400である。DT④を作ってからほとんど使わなくなった。

4つ目のアカウント（DT④）は、趣味アカウント（DT③とDT⑤とDT⑥）で繋がっている人の中で親しいとっていて自分が一方的にこの人になら素を見せていいと思った人と繋がっている縮小アカウント（鍵アカウント）で、フォロー約70 フォロワー約40である。

5つ目のアカウント（DT⑤）は、アイドルを応援するための趣味アカウント（公開アカウント）で、フォロー・フォロワー共に約150である。

6つ目のアカウント（DT⑥）は、別のアイドルを応援するための趣味アカウント（公開アカウント）で、フォロー・フォロワー共に約30である。つまり、DT⑤とDT⑥は推しのアイドル1人に対して1つずつアカウントを作ったということである。

DさんはInstagramのアカウントを2つ持っている。

1つ目のアカウント（DI①）は、リアルアカウント（鍵アカウント）で、フォロー・フォロワー共に約200である。

2つ目のアカウント（DI②）は、アイドルを応援するための趣味アカウント（公開アカウント）で、フォロー約35 フォロワー約15である。

DT①→DT②→DT③→DT④→DI①→DT⑤→DI②→DI⑥の順番でアカウントを作った。

#### 【Eさん】

Eさんは、Twitterのアカウントを3つ持っている。

1つ目のアカウント（ET①）は、アイドルを応援するための趣味アカウント（公開アカウント）で、フォロー・フォロワー共に約80である。イベントに参加した時のみツイートする。

2つ目のアカウント（ET②）は、ET①の縮小アカウント（鍵アカウント）で、フォロー・フォロワー共に5である。5日に1回程度趣味に関することをツイートする。

3つ目のアカウント（ET③）は、アイドル（ET①のアイドルに限定されない）やドラマ、日常生活などについてつぶやくためのアカウント（鍵アカウント）である。フォロー・フォロワー共に15である。リアルの友人で同じ趣味を持つ3人と今までの趣味アカウント（現在では削除して存在しないものも含む）でつながった人のうち気のあう12人である。

EさんはInstagramアカウントを3つ持っている。

1つ目のアカウント（EI①）は、リアルアカウント（鍵アカウント）で、フォロー約500 フォロワー約400である。どこかへ行ったり誰かと遊んだりしたときに投稿する。

2つ目のアカウント（EI②）は、趣味アカウント（鍵アカウント）で、フォロー・フォロワー共に約30である。ほとんど投稿していない。趣味アカウント同士で相互フォローである。

3つ目のアカウント（EI③）は、縮小アカウント（鍵アカウント）で、フォロー・フォロワー共に25である。趣味に関することも日常的なことも気にせずほとんど毎日投稿している。趣味アカウントで知り合い仲が良くなった人とリアルで仲が良い友人の両方と繋がっている。

ET①→ET②→EI①→EI②→EI③→ET③の順番でアカウントを作った。

## 第4章 分析

### 第1節 リアルアカウントにおける趣味の話題

本調査では、リアルアカウントにおいては、趣味の話題は避けられるか、きわめて限定されている傾向が認められた。

Aさん(AI)とEさん(EI①)は、推しのイベントに行った時のように特別なことのみ写真を載せて一言二言を添えて投稿する。Cさんの場合、CT②では、自分の主な趣味である二次創作の中でも、周囲の友人たちも好きだったり投稿したりしているような、有名なアニメやゲームそのものに関する(二次創作でない)話題について投稿する。しかしCIでは、趣味に関する投稿はいっさいせず、きれいな写真、旅行に行ったこと、友人といる場面など「いいところ」しか見せない、いわゆる「キラキラアカウント用」だと語る。このことについてCさんは、「Twitterで繋がってる人間がそもそも少ないっていうのもあって、息の合う人しかいない」、「フォロワーとかも含めて素を出せる人間がそっちの方が多い」と語っている。Dさんは、周囲の友人にとやかく言われるのが嫌なため、リアルアカウントで趣味に関する投稿はしない。

ただし、Bさんは例外で、アカウントを使い分ける必要性を感じていないため、そもそも趣味アカウントとリアルアカウントを分離していない。ツイートの内容は趣味のゲームのことが8割、リアルのが2割という。

このように、1人の例外を除いてリアルアカウントで趣味の話題が避けられたり、限定されたりするのは2つの理由が考えられる。

1つ目は、自分の趣味をオープンにしたくないと考えているからである。Aさんは、声優を推すという趣味を、今はあまり気にしていないが、昔は恥ずかしい趣味だと思っていて隠していた。Cさんの場合、二次創作のみならず、あまり有名ではないアニメ、ゲームについても、オープンにしたいと思う趣味ではないと今でも考えている。Eさんはアイドルの推しを隠すような趣味だとは思っていないが、同じ趣味の人か仲が良い人にしかあまりオープンにはしたくないと考えている。

ただし、その一方で、Bさんは、そもそも趣味アカウントとリアルアカウントを分離していないので、友人に趣味に関する投稿を見られることに抵抗感がないと考えられる。また、Dさんは、アイドルを応援するというのを悪い趣味だとは思っていないので、オープンにすることに抵抗感はない。これら2人は、特にオープンにしたくないとは考えていないようだ。

2つ目の理由は、趣味の話をしている時の自分を、別の自分だと思っているからである。例えばAさんは、次のように語っている。

A: んーそのまず、ハンネ(ハンドルネーム)っていうか名前が違うことと、あと、うーん、なんっていうかな フォローは絶対させたくないなって感じ。例えば、一回見つ

かっちゃったことあるんだよね、その、幼馴染いるじゃん。

野々村：うん。

A：その子になんか、なんだっけな、フォローされて、Twitterで（笑）。「やっぱ」って思ってすぐ鍵かけたんだけど。だから、それですごい慌てちゃったくらいには繋がりがたくない。幼馴染っていう一番なんでも見せれる子だとしても絶対に嫌だ（笑）。

ここで、声優を応援している自分は、「一番なんでも見せれる（ママ）」相手にさえ見せたくない自分であり、まったく別の自分であるべきだと思われている。これは、声優を応援するという趣味を恥ずかしいと思わなくなった今でも変わらないようだ。

Cさんも、たとえどれほど仲の良い相手も、趣味が合致しない限りは、趣味アカウントを見せることができないと考えている。

C：趣味の自分が多分違う自分やと思ってるというか、別人格を作ってしまったから、ある意味。それを見せるのが恥ずかしいみたいな。リアルの方ではこういう自分をプロデュースしてるじゃないけど、趣味の方では趣味全開の気持ち悪いオタクみたいなを見せたくない。

Cさんは、同じ趣味で仲も良いリアルの友人1人とは趣味アカウント同士繋がっている。それが唯一の例外だという。

ただし、以上の2人に対して、他の3人は趣味の話をしている時の自分を別の自分として分離するこだわりは、それほど強くないかもしれない。例えばEさんは、リアルの知り合いの前での自分と趣味アカウントで知り合った人の前での自分は同じだと考えているため、もし仲が良くなった人に求められるようなことがあれば、趣味アカウントを見せられるという。Dさんは、リアルの知り合いの前での自分と趣味アカウントで知り合った人の前での自分は同じだから見せても問題はないが、とやかく言われるのが面倒なのでリアルの知り合いに趣味アカウントを見せたくない。しかし、似た趣味の友人や特に仲が良く、理解のある友人とはDT③のアカウントで繋がっていた（今はほとんど使っていない）。また、Bさんは、そもそもアカウントを分けていないので、「別の自分」という考え方をもっていないといえる。

このようにしてみると、本調査の場合、必ずしも一律ではないが、リアルアカウントにおいて趣味の話題は避けられるか、きわめて限定されている傾向が認められるとってよいだろう。

## 第2節 アカウントを新設する動機・理由

このようにして、(Bさんを除いて) 趣味アカウントが必要となるが、その趣味アカウントも複数化していく。それは、なぜなのだろうか。まず、各個人別に、趣味アカウントを新設する動機・理由をまとめる。

### 【Aさん】

AT①：好きな声優のライブに行きたくて情報収集のために作り、同じ趣味を持つ人たちと繋がった。

AT②：イベントでフォロワーと会うようになり、もっと仲良くなりたいたいと思い、鍵アカウントを作った。AT①→AT②の繋がる過程は、AT②はAT①と異なる名前で運営していて、プロフィール欄にAT①のアカウントをタグ付けし、「@～です」と記載し、誰が運営しているアカウントか分かるようにした。自分が繋がりたいと思った人のみをフォローしている。

AT③：AT②のアカウントでフォロワーと更に仲良くなり、空リプ\*を行うことが多くなったが、他の人に迷惑だという話になり、特に仲の良い6人で、それぞれが鍵をかけ、他の人は一切フォローしない、フォローさせないという閉鎖的なアカウントを作った。この際にAさんが作ったアカウントがAT③である。LINEのグループ電話で一緒にアカウントを開設し、フォローし合ったため、6人以外はAT③のアカウントを知らない。

AT④：AT③のアカウントでゲームをやっているAさんを含む3人は、ゲームについてのツイートを時々していたが、日に日にツイートの数が増え、ゲームをやっていない他の3人に迷惑だと思い、ゲーム用のアカウントを開設した。AT④を開設したことはAT③のアカウントでタグ付けをしてツイートしていたためゲームをやっていない他の3人も知っている。最初AT④のアカウントで繋がっていてゲームをやっている2人のみがフォロワーだったが、AT②のアカウントで繋がっている人が「ゲーム用のアカウントを作ったので良かったらフォローしてください」とタグ付けをしてツイートしていたため、ゲーム用のアカウントでフォローしてもいいかりプライ\*で聞き、許可をもらって繋がった。

AI：応援している声優がInstagramのアカウントを開設したため、投稿を見たり反応をしたりするために開設した。多くの友人がInstagramを利用するようになったのもInstagramのアカウントを開設した理由の一つである。

### 【Cさん】

CT①：中学卒業と同時に海外に引っ越すことになり、最後に同じ趣味を持つ友だちと遊んだ時に作らされた。

CT②：大学入学時に、知り合いを増やすために作った。現在は大学の友人とは Instagram で繋がっているため面識のない人はブロック解除をし、仲が良く Twitter のリアルアカウントを使用している人のみと繋がっている。

CT③：趣味のグッズ交換の取引をするために作った。

CT④：リツイートキャンペーンに参加する際に、フォロワーに興味のないツイートがタイムラインに表示されるのが申し訳ないと思ったため作った。

CI：周りの友人が Twitter よりも Instagram をメインに利用するようになったため Instagram のアカウントを作った。

#### 【D さん】

DT①：高校に入学するときに友人作りのために作った。

DT②：大学に入学するときに友人作りのために作った。

DT③：同じ趣味を持つ人と繋がりがたくて作った。

DT④：大学の同期にアカウントを見つけられてネタにされたのが嫌で鍵アカウントを作った。

DT⑤：DT③のアカウントで繋がっているフォロワーに布教されたアイドルを好きになり、本格的に応援するために作った。

DT⑥：新しく応援したいアイドルができたため作った。

DI①：リアルの友人と繋がるために作った。

DI②：アイドルの投稿にリアクションするために作った。

#### 【E さん】

ET①：好きなアイドルを応援するために作った。

ET②：公開アカウントでは投稿できないような投稿をするために作った。

ET③：繋がったきっかけが Twitter カリアルかは関係なく、仲が良く Twitter を現在も使用している友人と繋がり、話題に縛られることなくツイートできる場所を求めて作った。

EI①：リアル友人と繋がるために作った。

EI②：Twitter で繋がった同じ趣味の人と Instagram でも繋がるために作った。

EI③：Instagram の「親しい友達」に入れている基準よりも深い基準の仲が良い人のみのアカウントが欲しいと思い作った。

このようにしてみると、同じ趣味のことで縮小アカウントが作られる主要な理由は、以下の2つではないかと考えられる。

1つ目は、趣味を通して仲良くなった人とより仲良くなりたいという気持ちからである。AさんとDさんとEさんは趣味を通して仲良くなった人と縮小アカウントでも繋がることにより、趣味アカウントで繋がったフォロワーに自己開示を行なっている。Aさんは、Instagramではわざわざ投稿しないような日常のちょっとしたこともTwitterでは投稿すると語っているため、Twitterの趣味アカウントの縮小アカウントであるAT②、AT③で繋がることによってリアルアカウントであるInstagramで繋がるよりも深い自己開示となっているのではないかと考えられる。

2つ目は、趣味に関することでもネガティブな話やフォロワーの気に障ってしまいそうな話は公開アカウントではしづらいからである。趣味アカウントの鍵アカウントを持っているAさんとEさんは同じ趣味の話でも内容によって公開アカウントと鍵アカウント（縮小アカウント）を使い分けている。Aさんは、趣味に関することでも自分の考えはポジティブなことはツイートするが、ネガティブなことは公開アカウントであるAT①のアカウントではツイートしないと言っている。なぜなら、前に、Aさんがフォローしていたある人のツイートが、そのツイートに賛同できなかった人によって、引用ツイートやスクリーンショットの貼り付けによるツイートという形で、批判的なコメントと共に拡散されているのを見て、同じ目に遭いたくないと思ったからである。



A：まあ晒される人も晒される人だけど、いるじゃん？ そういうの見て私は晒されたくないじゃん。って思って、なんかそのなんだろう、晒されないように当たり障りのないような、例えばイベント終われば今日も可愛くて楽しかったなみたいな、当たり障りのないようなことしか言わなくなっちゃったな。

とAさんは語っている。Aさんは身近な人の投稿が批判されているのを見て、自分はそうならないようにと投稿内容に気をつけるようになり、ネガティブな自分の考えは公開アカウントには投稿しないようになった。

A：さっきも言ったけど、おっきいアカウントだとなんかやっぱり色んな人の意見があるわけじゃん。そのなんかみんながみんな推しに対して全肯定じゃないし。それでなんだろう、行き過ぎたアンチがいたわけじゃないけど、推しが何やっても文句しか言わない人が出てきて。最近はまあしょうがないんだよ、運営（その声優のマネジメント）がちょっとカスみたいなどころあるから。なんか私は好きなんだけどな～って思って、（推しに対して文句を言っているのを見るのが）嫌になっちゃう時もあるから。

このように、推しに関するネガティブなツイートを見ると嫌になってしまうというAさんは、自らも公開アカウントではネガティブなツイートをするのに慎重になると考えられる。

Eさんが公開アカウントであるET①でつぶやくのは、ほとんどが応援しているアイドルに宛てたリプライであり、したがってネガティブな投稿はしない。しかし、縮小アカウントであるET②や話題を限定しないET③やEI③で、「髪型が似合っていなかった」や「ライブで音を外していた」などのネガティブな発言をすることがある。

Eさんが応援しているアイドルはいわゆる地下アイドルであり、Eさんの投稿が推し本人の目に止まり、「いいね」やリプライが来ることがあったり、直接会って話す機会も頻繁にあったりする。そのため、自分がしたネガティブな投稿を推しが見て悲しむことのないように気をつけているようだ。このように同じ趣味アカウントであり、同じ趣味の話であっても、話の内容によってアカウントを使い分けていることが分かる。

### 第3節 趣味アカウントでされる日常の話題

こうして、趣味アカウントが複数作られるが、しかし、趣味の話題をするために作ったはずのアカウントで、それを逸脱する日常の話題がなされることがある。本節では、その部分に注目する。

Aさんは、親しい人とのみ繋がっている趣味の鍵アカウント(AT②)では、食べたものや行ったところなどの投稿をする。そのうえで、さらに親しい人とのみ繋がっている縮小の鍵アカウント(AT③)では、食べ物や行った場所に加えてリアルな悩みなどについての投稿をする。

*A 人間関係のことは、どうしたらいいんだろうってことあるじゃん。本当にわたし今何したらいいか分からない人間関係になっちゃった時に、全然誰かが答えてくれなくても、誰かがもしかしたらなんか答えてくれるかもしれないし。あと、バイト先の嫌だったこととかさ、なんか1回縮小(AT②)に投稿して、なんか違うわって鍵(AT③)で投稿したことあるんだけどね。*

これに近いのがDさんとEさんである。Dさんは、この人になら素を見せていいと思った人と繋がっている縮小の鍵アカウントDT④で、日常の話題を躊躇いなく頻繁に投稿する。しかし、他ではしない。Eさんは、趣味アカウントであるET①とET②、EI②では日常の話はしない。しかしET③、EI③では、話題を限定していない。

これに対してCさんは、話題の逸脱には慎重である。唯一の趣味アカウントであるCT①(公開アカウント)で、食べ物や、日常の愚痴を時々投稿する。Cさんは、自分の性別や年齢、居住地などを知られたくないと考えている。

*C:趣味垢の方は鍵かけてないから自分の生活感が出ないように気をつけてる。年齢不詳な気がする。大学生ってとれるような発言もしてない。女ってことが分かるくらい。どこに住んでるとか(わからないように)気遣ってる。(中略)まあみんなが呟いてることならいいけど、特異的なことを特定の日時でやると、紐付いてないからリア垢と趣味垢が。バレそうって思っちゃう。*

しかし、食べ物についての投稿は時々ある。食べ物のことならなんでも投稿するというわけではなく、推しのイメージ・カラーの食べ物の写真を載せたり、食べ物と一緒に推しのキャラクターのぬいぐるみを載せたりといったようになるべく趣味に関連付けた投稿をしている。

このように、温度差はあるが、複数ある趣味アカウントのうち、主に相手を絞り込んだ縮小アカウントにおいて、本来の目的である趣味の話題を逸脱することがある。趣味アカウントで日常の話題がされるのには、フォロワーとの仲も影響していると考えられる。A

さん、Dさん、Eさんは、日常の話題も投稿するアカウント（AT②、AT③、DT④、ET③EI③）においてのみ「いいね」、リプライ、ダイレクトメッセージなどの交流をフォロワー同士で個別に行っているが、他のアカウントでは行っていない。ただし、例外としてEさんは、ET②では趣味の話題に限定しているが、個別の交流もあるという。

このように、親しくなればなるほどより多くの日常の話を趣味アカウントでしやすくなる傾向が認められる。その点、Cさんは、ツイートに対してリプライが来たら返信するが、自分からはリアルな友人以外にリプライすることはほとんどなく、食べ物に関する話を時々するCT①においてもリアルな友人以外とはほとんどやりとりをしていない。Cさんは、リアルな友人で趣味に関する話を熱く語れる人がいるという。そのため、誰かと趣味について語るということがリアルな生活で完結できてしまい、SNS上で趣味に関する話をフォロワーと語る必要を感じず、フォロワーとの交流も生まれない。その結果、Cさんは親しいフォロワーのみを集めた縮小アカウントを作っていないのではないかと考えられる。縮小アカウントを作らないことによって、食べ物という日常のちょっとしたことが公開の趣味アカウントで時々投稿されているのではないか。

#### 第4節 趣味アカウントのマネージメント

ここまでは、友人を選抜するなどして、趣味アカウントを増やしたりする部分に注目してきたが、実際には、そうしたアカウントの運営が、常に順調で不変とは限らない。そうした難しさは、特にAさんとのインタビューから感じられた。

Aさんは、AT①のアカウントで繋がっている人で趣味の話をしなくなった人はブロック解除\*をする。AT②の縮小アカウントでフォローしても縮小アカウントで繋がるのをやめたいと思うことがあるとAさんは語っていた。その場合関係を切るのかを聞くと、Aさんは次のように答えた。

A:いや縮小はちょっと厳しいから、1回だけ切ったかな。完全に私らの推しから、推しの話まじで一切しない子がいて、なんかごめんこっちからフォローしたけど切るねって切っちゃったことがあったな。とか、あとなんか同じように喋らなくなっちゃった子がいて、推しについてツイートしなくなっちゃった子がいて、しかもゴリゴリ他ジャンルの話してそんなに得意じゃないものを見せつけてくるから、ああもう自衛だなって思ってミュートしてる。

Aさんは、縮小アカウントで繋がっているとしても、趣味の話をしなかったり、他のジャンルの話ばかりをしたりする人を良く思っていない。Aさんに、もし趣味アカウントで繋がっている仲の良い人が、ファンを辞めて他のジャンルのファンになったり、日常的なことしかツイートしなくなったりしたらどうするか、という質問をすると、次の回答が返ってきた。

A:仲の良さによる。鍵の子とはずっと仲良くしてたいなって思うけど、それ以外はブロ解\*しちゃうかな。関わりがあって切りにくい子はミュート\*かな。縮小の方は基本みんなミュートかも。

このようにAさんは、「関わりがあって切りにくい子」、具体的にはAT②のアカウントまで繋がっている人の場合はミュートをするが、「ずっと仲良くしていたい」人、すなわちAT③のアカウントまで繋がっている人とは、ファンを辞めたとしてもこれからも仲良くしたいと思っているので、AT③ではミュートやブロック解除はせず、趣味以外、例えば食べ物や行ったところ、悩み事など、幅広い話題に関する投稿をするようにしている。このことから、Aさんが求めている「趣味の話もリアルの話もできる友だちのような関係」に一度なることができた場合、たとえ趣味の話ができなくなってもリアルの友だちと同一ような扱いとなると言うことができる。

## 第5章 考察

### 第1節 趣味アカウントの多様性と多義性

複数アカウントを持つ理由（用途）についても詳細を聞き取った結果、2つのことが明らかになった。

第1に、本人たちにとっては合理的な理由で、趣味アカウントが複数化していくことが明らかになった。リアルアカウントと趣味アカウントを分けて使用する合理的な理由は、青山（2018）の「趣味を知っている人と（趣味の）情報を共有したい」という目的に該当すると考えられる。それと同じように、「リアルに自分のことを知っている人とさまざまな情報を共有したい」という目的もあると考えられる。

同じ趣味のアカウントでも、公開アカウントと縮小鍵アカウントに分けて使用する合理的な理由は、両者を使い分けることにより、SNSを通して快適に趣味を楽しむことができるからである。同じ趣味を持つフォロワーと親しくなることでより深く趣味の話ができ、一緒にイベントに行ったり趣味について語ったりすることができるため、ひとりで趣味を楽しむよりも充実度が増すと考えられる。また、公開アカウントは、誰でも見ることのできるアカウントであるため、公開アカウントでされるツイートが同じ趣味を持つ人と繋がるきっかけにもなり、趣味の仲間が増えるだろう。公開アカウントを使うことは、フォローしているか、フォローされているかに関わらず趣味の情報を共有できるため、これも青山（2018）がいう「趣味を知っている人と情報を共有したい」に該当すると言える。

さらに、公開アカウントは、Eさんがそうだったように（Eさん以外の人についても）「推し」本人が見ている可能性もあり、推しへの想いを届ける場としても機能していると考えられる。しかし、公開アカウントでは推しやあまり親しくない人には見られたくないような投稿をしづらいという欠点がある。その欠点を補うために縮小鍵アカウントも併用するのではないかと考えられる。縮小鍵アカウントは、推しには見られたくない趣味に関することを投稿すると同時に、日常に関することも投稿することで、フォロワーとの仲をより深くする場にもなっているのではないか。

しかしながら第2に、当初は趣味の話題を投稿する目的で開設したアカウントにおいて、それから逸脱する日常生活の話題や、愚痴などが投稿されることがあることも明らかになった。これには、少なくとも3つのパターンがあると考えられる。

1つ目のパターンは、Aさん、Dさん、Eさんの場合で、趣味の公開アカウントでつながった人から選んで（Eさんの場合は、リアルで仲が良い友人を加えて）縮小の鍵アカウントを作るパターンである。その際、趣味に関する深い話をするのも目的になるが、それと同時に、信頼できる人だけとの場になるので、日常生活の話題や、愚痴なども投稿しやすくなる。

2つ目のパターンは、Cさんの場合である。Cさんは話題の逸脱には慎重なタイプだが、趣味アカウントであるCT①（公開アカウント）で、食べ物や、日常の愚痴を稀に投稿している。その理由は、リアルな友人の中に趣味について熱く語ることもできる人がいることもあって、SNSではそのための縮小アカウントを作らなかったからである。CT②はリアルな友人と繋がるアカウントであり、CT③④のアカウントは取引等の特殊な目的のために開設されたアカウントである（しかも現在あまり使用していない）。つまり、たとえ趣味アカウントを複数化しても、リアルな生活に関する愚痴などを投稿しやすいアカウントを別に作っていない場合には、純粋に趣味アカウントとはいえない部分がでてくる可能性がある。

3つ目のパターンはBである。もともとの目的は趣味の話題を投稿するためではあるが、趣味で知り合った人にも「もうちょっと自分のこと知って欲しいな」と思うようになり、日常の話題も投稿するようになった。このように、趣味アカウントでのつながりを趣味の話題に限定しようとする意思がゆらぐ場合も、純粋な趣味アカウントとはいえなくなるだろう。

これらに加えて、第4章第4節で取り上げたAさんのケースでは、フォロワーとの関係性を構築・維持するために、柔軟にアカウントでの話題に幅をもたせる場合もあることが分かった。趣味に関する深い話題をするためにつなげた人が心変わりをして話題が合わなくなった場合、AT②のアカウントの場合にはミュートをする。しかし、特に仲良くしたいと思う相手とのAT③のアカウントの場合には「趣味の話もリアルの話もできる友だちのような関係性」を目指し、話題に幅をもたせる。その結果、もはや趣味アカウントは純粋に趣味の話だけをする場ではなくなる。

このように、一言で「趣味アカウント」といっても、その使用状況は複雑で、単に趣味に話題を特化してリアルな友人と切り分けるような場になるとは限らないことがしばしばおこると考えられる。その背景には、SNSのフォロワーに求める関係性、言い換えればSNSでのつながりに何を求めるかが関わっているように思われる。Aさん、Dさん、Eさんの場合、SNSでのつながりを利用して、親しい人との関係性を構築していきたいという意欲が強く感じられる。そのために、愚痴などネガティブな話題もできるアカウントの開設に意欲的になる（たとえ、その結果マネジメントに苦労があったとしても）。それに対して、Cさんは、「趣味のアカウントだからメインは趣味の話したい。でもそこで仲良くなった人とじゃあリアルで会いますかみたいな、趣味以外のことも話しますかってなるとあんまり、かな」と語っており、SNSでの趣味縁をそれ以上のものに展開したいとは考えていないように思われる。Bさんは、この点について明確に語ってはいないが、どちらかといえばCさんに近いのではないかと。なぜなら、そうでなければ単一のアカウントでは満足できなくなる可能性が高いように思われるからである。このように考えると、SNSのフォ

ロワーに求める関係性が、趣味アカウントにおける話題の逸脱・柔軟性が発生するパターンの背景にあるのではないかと考えられる。

## 第2節 情報深度の調整について

第2章では、若狭（2018）をふまえて、本研究の調査協力者たちがどのように情報深度の調整を行うのかに着眼すると論じた。この節では、各個人別に行なっている情報深度調整方法を見ていく。

AさんとEさんは、リアルアカウントでの趣味に関する投稿は、イベントに行った時のように特別なことのみ写真を載せて一言二言言葉を添えて投稿している。これは情報深度を浅くしていると言える。Cさんは、リアルアカウントでの趣味に関する投稿は、周りのリアル友人たちも知っているようなメジャーなものについての投稿のみにしている。これは、多くの人と語れる共通のモノであるため、情報深度が浅いと言える。また、公開の趣味アカウントでは、食べ物についての投稿などもしているが、それらはイメージ・カラーやグッズなど推しに関連づけられるため、多くの人と語れる共通のモノであるといえる。したがって、これも情報深度を浅く調整していると言えるだろう。

Dさんは、リアルアカウントでの趣味に関する投稿は、以前はしていたが、友人にとにかく言われて嫌だったため、それ以降しなくなった。情報深度の調整というよりは趣味の話題それ自体を抑制しているが、一種の調整といえるかもしれない。

このように、本研究でも調査協力者たちは、何らかの形で情報深度の調整を行っていることが分かった。ただし、Bさんは唯一のアカウントに気兼ねなく趣味の話題を投稿している。このように、SNS上においてあえて情報深度の調整を行おうとしない（あるいは、行う気がない）タイプの人もあることがわかった。

また、私は趣味の内容によって、情報深度の調整に関する動機が異なるのではないかと考える。Aさんの声優、Cさんの二次創作・アニメ、Eさんのアイドルといった趣味は作品や人物に対する評価や好みの多様性が気になるタイプのものであるがゆえに、情報深度の調整に気を遣いやすい。

BさんとCさんの趣味はどちらもゲームであるが、情報深度をBさんは調整しないがCさんは調整するという違いが見られた。この違いはゲームの内容が関わっていると考えられる。Bさんの行なうゲームは、オンライン上で、複数の人で行なうタイプのものが多く、個人的で私密的なイメージを本人たちがあまり持っていない可能性がある。一方で、Cさんの行なうゲームはひとりで行ったり、多様なキャラクターや二次創作に結びついたりするタイプのもので、相手にどう思われるか常に気を遣う側面が強いかもしれない。



### 第3節 おわりに

本調査でリアルアカウントと趣味アカウントの両方を持つ複数の人にインタビューを行ったが、リアルアカウントと趣味アカウントをリアルと趣味の話題で完璧に使い分けをしている人はほとんどいなかった。特に趣味の鍵アカウントは、非常に話題に幅があり、多様な役割を果たしているということが分かった。今後 SNS の複数アカウントに関する研究は、こうした点も踏まえるべきではないかと思う。

## 文献

- ・青山征彦, 2018, 「大学生における SNS 利用の実態——使い分けを中心に」『成城大学社会イノベーション研究』13(1): 1-17
- ・若狭優, 2018, 「自己呈示の手法としての『SNS の使い分け』——状況論的自己論の視点から」『社会学雑誌』(神戸大学社会学研究会) 34: 113-130

## 巻末資料：グロッサリー（用語解説）

### ・引用リツイート

他のユーザーの投稿に、自分のコメントを添えてリツイートする機能を指す。リツイートとは、ツイートを再びツイートし、拡散することである。

### ・鍵アカウント

フォロワーしかツイートを見ることができない。自身のアカウントをフォローしたいユーザーからフォローリクエストが来て、それを承認したユーザーのみがフォロワーとなり、ツイートを見ることができるという閉鎖的なアカウントを指す。

### ・空リプ

特定の相手に対する発言をリプライではなく、ツイートのタイムラインに公開する形で発言することを指す。

### ・公開アカウント

誰でも自由にツイートを見たり、フォローしたりすることができる開かれたアカウントを指す。

### ・相互フォロー

互いに相手をフォローしていて、自分のフォロー欄にもフォロワー欄にも相手がいる状態を指す

### ・縮小アカウント

もともとのアカウントで繋がっている人の中で、選ばれた人のみが繋がることのできるアカウントを指す。

### ・推し

応援する対象の人やもの

### ・ブロック解除

ブロック機能を使ったあとにすぐにブロック操作を解除することを指す。この手順を踏めば、こちら側から相手のフォローを外させることができ、お互いにフォローし合っていない状態になる。

### ・布教

自身の趣味や気に入った作品を周りの人達に広めることを指す。

### ・ミュート

フォローを解除したり、ブロックしたりすることなく、特定のアカウントのツイートをタイムラインに表示されないようにする機能を指す。ミュートをされたことは相手には分からない。